

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900685		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと船橋小室		
所在地	千葉県船橋市小室町5077		
自己評価作成日	2022年1月30日	評価結果市町村受理日	2022年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2022年3月25日(書面)評価

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で落ち着きと温かみのある施設内と、いつも明るく清潔感のある空間を保てるよう努めている。グループホームの理念・目的でもある『暮らしの継続』を主眼におき、いつまでも自分らしく穏やかな日常生活をお過ごしいただけるように、サービスのご提供をさせていただいております。入居者が一堂に会するリビングでは、談笑したり、テレビを見たりカラオケやレクリエーションをしたり食事をする場として使用しております。スタッフも落ち着いた環境で入居者と向き合い支援し、信頼関係を大切にして毎日の生活支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9月の人事異動により前任者が系列ホームに転勤となり、当ホームで経験を積んできた現施設長が昇格して、半年が経過した。ホーム方針として職員・利用者の感染予防を第一とし穏やかな生活が出来るように支援に取り組んでいる。利用者は家族のない方や生活困難な方が多く、身体面でも介護度3以上が9割、車椅子利用が半数と行動面の制約が多い。その中で職員は「笑顔でやさしく・親切(家族アンケートコメント)」な積極的な対応と年間行事計画に基づく四季の催物、誕生日会等の多彩なイベントで利用者を支援している。施設長を含め職員と、利用者の良き信頼関係づくりによる、暖かいホーム運営に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	2021年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々に近い施設であり、地域に開かれた施設であるように地域の方々と協力関係を深めていく	基本的人権の尊重、主体性の尊重などを明記した理念を定め、ホーム玄関に掲示している。定期的に唱和し、理念を活かして日常支援にあたることを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入して、地域の一員として参加し自治会員として認められている	北総線の駅に近く、現在周囲は住宅地に囲まれてきた。当初より自治会に加入し、コロナ以前は近隣掃除や地域の祭りに参加し、住民との交流もあったが、現在は全て自粛中である。小学校・保育園も近く、コロナ後の交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第4日曜日、認知症カフェを開催し地域住民の方と交流の機会を作っている。現在、コロナウイルスにより中断をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに開催しテーマを設けたりして活発な意見交換を行っている	運営推進会議は対面式で今年度は2回開催したが、途中2回は中止せざるを得なかった。3名の民生委員、後見人、地域包括支援センター、家族代表が参加し、ホームの現状について報告し、議事録も作成している。	作成した議事録を、従来からの参加メンバーに送付し、欠席者などからも提案や意見を頂くことをご検討頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事などを含めて分からないことや困ったことなどを担当者に相談して解決している	市の窓口は高齢者福祉課及び生活支援課である。生活保護の受給者も多いので市からの情報に不明点があれば、電話等で相談している。市の集団指導もあり、参加して情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の割合で、具体的事例を基に研修会を実施している	法人本部より社内研修年間計画の作成を指示されており、毎月の研修計画に拘束廃止・虐待防止の計画を立て実施している。併せて身体拘束適正化委員会を年4回、ホーム関係者で開催し、議事録も作成しているが、該当事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などへの積極的な参加を促し、職員に理解していただき防止に努めている		

自己	外部	項目	2021年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解不足や勉強不足の部分があるのでみんなで理解できるよう少しずつ勉強していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居についてはしっかりとご理解いただけるよう十分な時間とご説明を行いご納得の上のご理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は随時行っておりご意見やご要望についてはその都度反映できるようにしている。日常の写真を送ったりもしている。又、市担当職員等へも必要時お伝えしている	コロナ禍の訪問自粛の為に話し合いの機会は少ない。その為に、利用者の日常を知らせ、電話等で意見を聞く機会を増やしている。ご家族がいない方もあり、職員は利用者の日常生活支援の中で、積極的に要望を聞く様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中でも意見交換をしたり、月に1度のスタッフミーティングを行ったり、連絡ノートの活用も行いその都度運営に必要な事については出来る限り早く反映できるように努めている。	施設長は年間職員研修計画を策定し、職員の意識とスキルの向上に努めている。日常生活の中や、毎月の職員会議などで積極的に職員の要望や提案を取り上げ、その解決と実践に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や年に1度の昇給、勤務時間等については各職員と話し合い少しでも働きやすいようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング等短い時間でもスキルアップ出来るよう努めている。社内研修の機会も設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後同業他社や地域ネットワーク等での交流機会を設けてサービスの質の向上に繋げていきたい		

自己	外部	項目	2021年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し安心して入居が出来るよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し安心して入居が出来るよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について話し合いを行いご理解できた上で支援できるよう努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事ややりたい事等を見極めてやりがいある生活が出来るよう支援していく			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を職員が気兼ねなくとりコミュニケーションを深めより良い信頼関係を築けるよう努めている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、知人等の面会や電話等で対応している。ただ、コロナウイルスの中なかなか難しい状況が続いている	コロナ禍の感染予防対策で『面談室対面・窓越し対面』等を予約制とし、家族や知人との関係が継続するよう工夫している。来訪者は少なくなり利用者や職員が馴染みの人になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格などを踏まえて、仲良く過ごせる環境づくりをしている			

自己	外部	項目	2021年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、連絡、相談の受付をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自宅などでの生活状況を確認し、希望や思いに沿って生活が送れるよう努めている	契約時に、利用者や家族から『思い』や『暮らし方の希望』を聞いている。利用者との日々の語らいを大切に、職員間で利用者の情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況の情報収集をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況や心身状況について毎日の記録を行い申し送りをして把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、職員より意見を聞き話し合い作成している	介護計画に基づく利用者への支援が適切であるかを、個別記録や職員の意見をもとにモニタリングしている。課題解決のために利用者や家族、かかりつけ医の意見を反映して新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別記録で記入し、職員間で情報共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や状態等に応じて必要なサービスが行えるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	2021年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関との連携が取れるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族、職員と医師と話し合い必要な診療を受けている	利用者や家族の同意を得て当施設の『24時間対応型のかかりつけ医』に変更している。歯科医や薬剤師、看護師の訪問がある。診療情報は職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療所と連携を図り必要な指示や対応をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員やワーカーと面会や情報収集を行い退院に向けての共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居契約時に当施設での対応などの説明をしている	重度化しても医療的行為が必要であればホームで過ごして頂戴することを説明している。利用者が重度化した場合は、利用者や家族、かかりつけ医等と協議し入院させるか、ホームで看取るかを決めている。研修を受けた職員でチームを組み看取り対応し、職員の心のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内で初期対応や応急手当、AED研修などを行い対応できるよう努めているが、必ずしも十分に十分な対応が出来るのは難しいと思われる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っているが、地域との協力体制は築けていない	『職員の緊急連絡網』『危機管理対策』『新型コロナ以外の感染症予防対策』も作成されている。地震の避難訓練を実施し、避難場所として地域施設との連携が図られている。	

自己	外部	項目	2021年度自己評価		
			実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応の仕方には、尊重しながら行うように努めている	職員は常に利用者の眼を見て目立たないように声掛けし、利用者の気持ちに寄り添い支援している。男女共用のトイレにはマナーとして『ノックをしましょう』の貼紙があり、各部屋を訪ねる時も同様にノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選んでいただいたり意思や希望を確認して自己決定をしていただけるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	お茶の時間や食事の声掛け促し行うが、どうするかはご本人に決めて頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	用意や片づけを皆で行い職員も一緒に食事をしている	施設でご飯や汁物を作っているが、副菜は毎食フリーズ食品を利用し、利用者に合わせ食形態を調整している。整腸目的で、毎日味を変えた手作りゼリーをおやつに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別記録に記入している。嚥下状態に合わせて食事形態にも工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い必要に応じて介助を行っている		

自己	外部	項目	2021年度自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け見守り行い習慣づけに心掛けている	オムツ・パットを使用している利用者も、昼間は声掛け見守りで『全員トイレ排泄』を目標にしている。夜間も職員が見守り、行動探知センサーは使用していない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や様子を見ながら声掛けを行い、本人の希望や変更を行っている	週2回の入浴が基本であるが、季節や利用者の体調に合わせて回数を調整している。浴槽は2方向から介助できるように設置されている。皮膚の状態把握のため、入浴剤の使用はしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や体操の時間は決まっているが、ご本人の様子やペースでお任せしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設で管理をしておりドクターの指示を頂きながら、様子確認などを行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、家事等ご本人が出来ることをお願いして行っている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により施設周辺や近くの公園などへ散歩を行っている	コロナの感染予防のため、人の密集する集まりは中止されており、外気浴に花を育てたり、近くの公園まで、小グループで短時間コースの散歩に出掛けている。		

自己	外部	項目	2021年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理をしておりますご要望や必要なものがある時には一緒に買い物に行ったりしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて対応している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分が愛用していた物を使ってもらったり、施設内も柔らかな調光にしている		朝は居間でラジオ体操をし、午後は長廊下で歩行練習をしている。安らげる居間は利用者の寛ぎのスペースとなっている。『職員は個々の利用者と話せず一日が終わらないように』と、職員から利用者に積極的に話し掛ける場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自由に好きな時に来られるようにしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご見学時やご入居前にご本人が使っていた物を持って来て頂き落ち着く慣れ親しむ場所として頂いている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用廊下やトイレなどには手すりを設置し、ゆとりのあるスペースの確保も行っている			